

【ねがいましては】

第58号

平成5年9月25日
共和珠算学習塾

「どうした？」

今からもう7年前のこと。浦安教室の生徒のことです。彼は中学1年生、野球部に入っていました。いつものように朝練習をしていました。そこにチャイムの音が「ピンポーン」と流れました。2・3年の先輩たちは遅刻してはならぬと、さっさと各教室へ行ってしまいました。1年生がその当時、彼ひとりだったわけで、バットやボール、グローブなどを片付けてから教室に行きました。彼は遅刻扱いとなり、おまけに担任に殴られたそうです。

その夜、彼は塾でそのことを話してくれました。私は一言「えらい」と言いました。

ひょっとしたら私には出来ないかもしれない・・・。ふと、そう思いました。そこには勇気がありました。耐える心もありました。私はそのことを話してくれたことに、とても感謝しています。聞いてあげられたことで、彼も安心しただらうと思ったからです。

何か事が起こった時、例えばテストで低い点をとった時、一番傷ついているのは本人であるはずです。

未だ、学校の勉強はテストによる成績が中心です。それに拍車をかけているのは、受験進学体制とお母さんかもしれません。我が子の成績を気にかけない方はいないと思います。その他さまざまな要因が考えられます。

私の経験から、子が他人とのかかわりあいの中から「自分」を意識し始めるのは、早い子で3歳ころからだと考えています。自分は周りのみんなより成績が悪い、運動神経が悪い、チビだ、デブだ、顔が悪いだのさまざまなコンプレックスを感じるようになります。

落ち込みます。でも、中にはお母さんにバレないように無理して笑っている子もいます。

このような気持ちをきっちり受け止めてくれる人がいれば、子どもたちは明るくなります。

私は学校の先生方すべてが小さい頃、小学校、中学校、高校、大学、どの時期でもいいですから、劣等生であってほしいと願っています。なぜなら、一度でもそのような時期を経験されていれば、テストや体育、友だちなどで悩んでいる子の気持ちに少しでも近づけるような気がするからです。「どうしたの？」「なにかあったんだろう」と、一言、声をかけてあげられるような気がします。そこから先生と生徒の心のつながりが、より深まると思います。そして「ぼく、負けても平気、恥かいても平気、かっこ悪くても平気だよ！」って、けっこう言ってくれるかもしれません。

運動会も盛んな時期、かけっこでビリを走る子の気持ちに100%なってあげられる先生方がみんなであってほしいと願います。

もしビリをニコニコして駆け抜けていける子がいたとしたら、私はこの子に大拍手を送りたいと思います。「えらい！」

10月の予定

9月25日（土）4～10級 検定試験・・・共和珠算塾

26日（日）段～3級 検定試験・・・中央商業高校

28日（火）ゲームの日

10月 3日（日）そろばんまつり・・・中央商業高校（東京都中央区新川）

*集合・・・朝8：10 行徳駅ガード下

持物・・・おべんとう・のみもの・そろばん・筆記用具

九九表（使う人だけ）

帰りの時間・・・午後4時頃・西浜公園